

新たなミュージアムの整備に向けた取組

川崎市市民ミュージアムは、中原区等々力緑地内にて30年以上に渡り活動を続けてきましたが、令和元年東日本台風による被災を受けたため、現在は新たなミュージアムの検討を進めるとともに、ミュージアムに関する取組全体を「IN ACTION(市民ミュージアム、活動中!)」と題して、仮施設(麻生区)で被災収蔵品のレスキュー活動をはじめ、オンラインや他施設での企画展、出張形式での教育普及事業などの活動を引き続き実施しています。

本市では、新たなミュージアムの整備に向けた取組として、これまで「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」(2021(令和3)年11月)、「新たなミュージアムに関する基本構想」(2023(令和5)年5月)を策定し、基本構想において「生田緑地ばら苑隣接区域」(多摩区・下図参照)を開設候補地として選定しています。

今後は、2024(令和6)年度中を目途に「(仮称)新たなミュージアムに関する基本計画」を策定予定であり、本年2月には、**基本計画策定に向けた中間報告を公表**しましたので、その内容を中心に、新たなミュージアムの整備に向けた取組の最新情報をお知らせいたします。

新たなミュージアムの開設候補地

- 生田緑地東地区に位置する「生田緑地ばら苑隣接区域」は、被災想定区域(ハザードマップ)の該当がなく、十分な敷地規模を有していることに加え、周辺に文化施設が多いほか、ばら苑など緑豊かな自然環境に囲まれています。
- 生田緑地のエリアコンセプトに照らすと、新たなミュージアムは親和性が高く、周辺環境に即した多彩な取組の展開が期待できるほか、関連計画等との相乗効果により周辺エリア全体の大きな魅力向上に資する可能性があるなど、多くのメリットが考えられる場所といえます。
- 位置図中の楕円の点線は、開設候補地のおおよその位置を示したものです。今後、基本計画での開設地決定に向け、「生田緑地ビジョン」の改定内容等を踏まえ、最適な配置の検討を進めていきます。

開設候補地位置図(基本構想より)



基本計画策定に向けた検討状況

基本構想策定以降の主な検討(2024(令和6)年4月1日時点)

- 2023(令和5)年 5月 … **新たなミュージアムに関する基本構想策定**
7月 … 基本構想説明会開催(計3回開催)
8月 … 小田急電鉄と「新たなミュージアムの開設候補地に係る協議に関する覚書」締結
9月 … **オープンハウス型説明会開催(11月まで計10回開催)**
10月 … **第1~3回市民ミーティング(ワークショップ)開催**
11月 … **市民アンケート(Webアンケート)実施**
小田急電鉄と「新たなミュージアムの開設候補地に係る基礎調査・検討に関する協定書」締結
- 2024(令和6)年 2月 … **基本計画策定に向けた中間報告公表**
3月 … **第4回市民ミーティング(ワークショップ)開催**

※このほか、有識者、公募市民で構成する「新たなミュージアムに関する基本計画懇談会」を3回開催。

■ 市民ミーティング(ワークショップ)開催結果概要

- ・ 中間報告までに開催した3回の市民ミーティングを通じて、「川崎市全体のつなぎ役、まとめ役としてのミュージアム」像が求められていることが把握できたほか、「市民参加を通じた交流、つながりや連携の創出」、「見せるだけではない、飽きさせない展示手法」などといった具体的な取組の方向性についてのご意見もいただくことができました。
- ・ 第4回では、中間報告や、専修大学学生による新たなミュージアムを考える取組の内容を参加者で共有した上で、**新たなミュージアムの具体的な活動について、アイデアやイメージを出し合いました。**この内容も、基本計画策定に向けた検討において活用していきます。

市民ミーティングの様子



市民ミーティングの様子は、
こちらのリンクから動画で
ご覧いただくことができます。
ぜひ一度ご視聴ください！



<https://youtu.be/4yDCLb7NjrQ>

■ 市民アンケート(Webアンケート)結果概要 (昨年11/1~11/14実施、計1,635名)

幅広い市民意見を収集・整理・分析し、基本計画に取り入れることを目的として、昨年11月1日~14日の期間に市民アンケート(Webアンケート)を実施し、1,635人の方から回答をいただきました。
ご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。

〈集計結果概要〉

Q. 重要な機能は？

「収集保存」(38.8%) 「教育普及」(35.8%)
「調査研究」「展示公開」「交流創出」など(25%前後)

Q. あるとよい交流の機会は？

「様々な体験・体感を他者と共有できる機会」(42.8%)
「地域の歴史・文化等を様々な世代に伝え、ともに学ぶことができる機会」(35.4%)

Q. 育成や活動支援に力を入れるべき対象は？

「文化財やその継承に関心がある人たち」(44.8%)
「地域や社会に貢献してみたいと考える人たち」(42.1%)

Q.(★)「生田緑地ばら苑隣接区域」を開設候補地としている新たなミュージアムに期待することは？

「生田緑地内の施設連携や回遊性向上」(28.4%) 「駅からのアクセス性の向上」(25.7%)
「カフェやレストラン等の併設」(22.1%)

Q. あるとよいプログラムは？

「自分のペースで鑑賞できるプログラム」(42.6%)
「体験型のプログラム」(39.1%)

Q. 活動で力を入れるべき対象年齢は？

「中高生」(50.8%) 「小学生」(45.0%)
「大人」(40.9%) 「若者」(38.9%)

Q. 取り組むべき地域・社会貢献は？

「歴史や文化を活用したまちづくり」(43.1%)
「地域の魅力の発信」(39.3%)

Q(★)の設問については、昨年9~11月にかけて市内各所で計10回開催したオープンハウス型説明会におけるシール投票(1人最大3票)でも同じ内容で意見聴取を行い、総投票数は4,945票でした。

総投票数は4,945票で上位の結果は、①子どもも過ごせる施設(1,007票)、②カフェやレストラン等の併設(772票)、③駅からのアクセス性の向上(553票)となりました。

オープンハウス型説明会の様子



出店ブース(かわさき市民祭り)



シール投票の様子(中原区民祭)

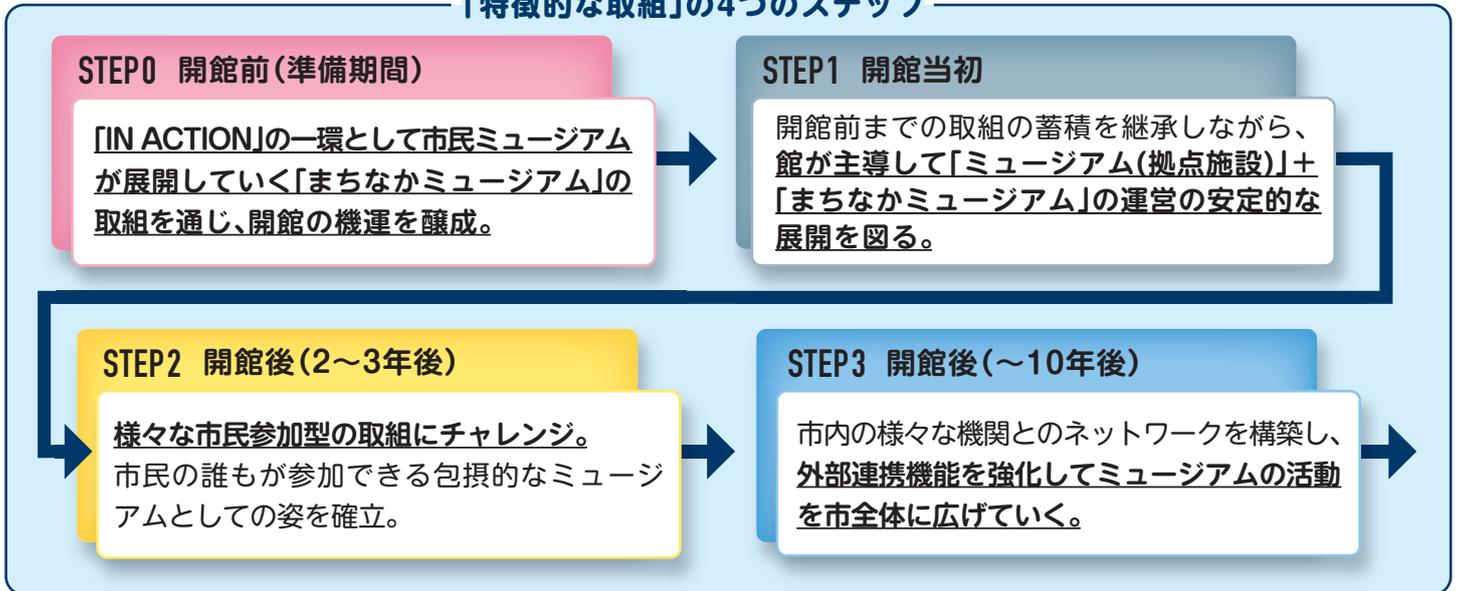


投票者へのプレゼント(缶バッジ)

■ 新たなミュージアムの具体的な事業内容(案)

- 中間報告では、新たなミュージアムの事業活動のベースとなり、恒常的に行っていく「**基本的な取組**」と、本市や市民ミュージアムの資源や特色を活用した個別具体的な「**特徴的な取組**」に大別し、現時点での事業内容(案)を示しています。また、その事業内容(案)を、基本構想で示した「**ミュージアム(拠点施設)**」と「**まちなかミュージアム**」のどちらで展開していくのかという点についても併せて整理しています。
- 「**特徴的な取組**」については、他分野との連携が必要となるチャレンジングな取組なども多いため、開館前から開館後(～10年後)までを4つのステップに分け、段階を踏みながら、活動の範囲や規模を広げていきます。

「特徴的な取組」の4つのステップ



■ 「ミュージアム(拠点施設)」の想定施設規模

- 中間報告では、具体的な事業内容(案)の実現に向け、次のとおり「**ミュージアム(拠点施設)**」に必要なと考えられる諸室イメージや想定施設規模についても示しています。内容については、等々力緑地に位置していた市民ミュージアム旧施設の諸室面積や学芸員ヒアリングによる利用実態、更には他都市博物館、美術館の諸室構成を参考として整理しています。
- なお、これまでの検討に基づく事業内容案を踏まえて必要と想定される面積であるため、**今後の検討や社会状況の変化等により想定面積の幅も変動する可能性があります。**

諸室イメージ	想定面積
収蔵・保管スペース	2,900㎡ ～ 3,400㎡
調査研究・デジタル化スペース	400㎡ ～ 500㎡
修復スペース	200㎡ ～ 300㎡
展示スペース	1,800㎡ ～ 2,200㎡
活動スペース	600㎡ ～ 700㎡
その他バックヤードスペース	1,800㎡ ～ 1,900㎡
ユニバーサル設備スペース	1,800㎡ ～ 2,500㎡
合 計	9,500㎡ ～ 11,500㎡

■ 今後の想定スケジュール

策定時期	内 容
2025(令和7)年 3月頃	(仮称)新たなミュージアムに関する基本計画 策定
2026(令和8)年 3月頃	(仮称)新たなミュージアムに関する管理運営計画 策定

※本スケジュールは想定される最短のものであるため、社会状況や他の計画等の動向も踏まえ、変更が生じる可能性があります。

Q1 新たなミュージアムは、いつ開館するの？



現時点では、未確定要素もあり、正確な開館時期をお示しすることは困難ですが、基本計画策定後には、概略の整備スケジュールなどをお示しする予定です。今後、基本計画、管理運営計画を策定し、さらに、基本設計、実施設計、工事、各種法定手続などを進めていきますが、標準的期間を考慮すると、現時点での見込みとしましては、開館は2030(令和12)年以降になることが想定されます。

Q2 新たなミュージアムはどんなことに力を入れていくの？



博物館と美術館が融合したミュージアムの強みを活かし、「ミュージアム(拠点施設)」と「まちなかミュージアム」において、文化芸術を介した様々な「つながり」や体験・体感の機会の創出に力を入れていきます。また、より多くの市民の方々が、ミュージアムの活動に触れ、ご参加いただけるよう、「ともに創るミュージアム」を念頭に置き、活動していきます。

Q3 他に開設候補地はなかったの？



新たなミュージアムの開設の可能性がある場所として、「①施設を建設する場合、当該敷地内で建てること可能な市有地、②被災想定区域(ハザードマップ)のない場所、③現状建築物等がない土地又は使う用途が決まっていない建物及び土地、④博物館、美術館の融合化に必要な延床面積が確保でき、ミュージアムという機能上一定のゆとりが必要なため、現施設の建築面積と同程度の土地面積がある場所」の条件により抽出したところ、「生田緑地ばら苑隣接区域」及び「現宮前区役所及び市民館・図書館用地」が該当しましたが、それぞれの場所で施設を整備した場合のメリットや開設に係る課題の解決の可否などについて比較・評価を行った結果、新たなミュージアムの開設候補地として「生田緑地ばら苑隣接区域」に優位性があり、適地と判断しました。

Q4 移転せずに、等々力緑地で再建するべきではないの？

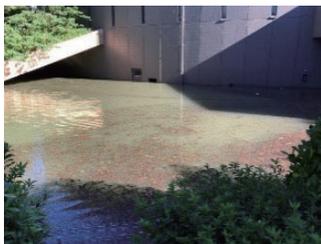


等々力緑地の旧施設は2階まで浸水するおそれがあることや、復旧するためには多額の費用が見込まれること、さらには構造耐力上の問題や高さ制限等の観点から増築等による対応も困難であることから、等々力緑地の旧施設での再開は行わず、可能な限り被災リスクの少ない場所に設置することを「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」(2021(令和3)年11月策定)において、決定しました。

Q5 令和元年東日本台風による被災とはどんなものだったの？



2019(令和元)年10月12日に関東地方を通過した令和元年東日本台風により地階に大量の雨水が流入し、館内の電気設備等が使用不能となり、9つの収蔵庫が全て浸水し、収蔵品約30万点のうち展示品等を除く約24万5千点が被災しました。被災から4年以上が経過した現在も、国立文化財機構などの外部支援団体や専門家からのご支援・ご指導のもと、被災収蔵品の応急処置、修復などのレスキュー活動を続けています。



浸水した地下駐車場



被災直後の第3収蔵庫(歴史資料等)



応急処置作業

新たなミュージアムについてのご意見をお寄せください。(個別の回答はいたしませんのでご了承ください。)

メール:25newmuseum@city.kawasaki.jp ファクス:044-200-3248

川崎市市民文化局市民文化振興室 新たなミュージアム準備担当

川崎市川崎区宮本町1番地 電話:044-200-0918

もっと詳しく
知りたい方はこちら

